海蔵あくら

四日市市立海蔵小学校
校　長　室　だ　よ　り
令　和　５　年　４　月　７　日
第1号
文責　校長　柳川洋史

「かいぞう」「あくら」の由来

海蔵を「かいぞう」と読む由来について、また「あくら」と読む時代があったことが、海蔵小学校百年誌に、記されています。

野田、末永、三ツ谷、四日市、羽津方面一帯の低い土地がまだ海であったころ、東、西阿倉川の高台は岬となって海の中で突出していました。

これが、むかし呼ばれていた志氐(しで)の岬で、垂坂山までの野が志氐我野(しでがの)です。

その岬の突端あたりに僅かな漁民が住んでいて、乾魚や海藻の類を蓄える横穴の蔵がありました。これを海蔵(あくら)と呼んでいたことが地名となったようです。

いまの「阿倉川」と書くようになったのは後のことで、500年程前までは「海蔵川(あくらがわ)」と書き、現在では「海蔵(かいぞう)」と呼ぶようになりました。

明治8年(1875 年)に始まった海蔵小学校は、148年目を迎えます。

マスク着用･･･お互いの思いを分かち合おう、支え合おう

この3年間、学校では人との距離を十分とれないときはマスクを着用することとしていましたが、今年度から基本的に着用しなくてもよいということになりました。 でも、みなさんの中には、

「感染が不安だから、これからも着用したい。」

「感染すると心配な家族がいるので、感染しないように着用していたい。」

「大事な予定や計画があるときなど、感染対策を徹底したい時には着用したい。」

など、さまざまな事情や思いがあり、引き続き着用していたい人もいると思います。

中には、長い間マスクを着用した生活だったので、マスクを外すことに抵抗があるという人もいるかもしれません。

どのような理由であれ、みなさん一人ひとりの意思を大切にしたいと考えていますし、みなさんにもお互いの思いを大切にしてほしいと思っています。

このことはマスクの着用のことだけではありません。勉強のこと、友だち関係のこと、家のことなどで不安に思っていることや心配なことをだれかに相談できたり、みんなで解決する方法を考えたりできる関係を築き、みんなが安心できる海蔵小学校にしたいと考えています。

みなさん一人ひとりがこの学校で自分らしく過ごし、さまざまな場面のいろいろな表情から楽しいことも悲しいこともつらいことも分かち合い、励まし、支え合っていける1年にしていきましょう。